



たつの市消防出初式はしご演技



発行所
財団法人兵庫県消防協会
神戸市中央区下山手通4丁目16番3号
編集発行人 岸谷 義雄
題字 井戸 知事

消すまでは
出ない行かない
離れない

新年あけましておめでとうございます。
県下の消防団員・消防職員の皆様方には、ご家族おそろいで健やかに新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。
平素は、兵庫県消防協会の運営に格別のご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。また、皆様方には、日々訓練を重ねられ、災害時には危険に身を挺し、地域住民の



新年のあいさつ

財団法人兵庫県消防協会

会長 岸谷 義雄

生命と暮らしを守るため献身的にご尽力いただいておりますことに、心から敬意を表します。
さて、二年前に発生しました東日本大震災は、想像を絶する被害が発生し多くの消防団員・職員が亡くなり、改めて自然災害の恐ろしさを痛感いたしました。
また、昨年九月には姫路市の石油コンビナート地区において爆発火災事故が発

生し、消防職員が殉職するという大変痛ましい事故が起きました。我々消防人にとって痛恨の極みであり、安全確保対策の大切さを再認識したところです。
そのほかにも、記録的な集中豪雨により各地で被害が発生するなど、複雑かつ大規模化している厳しい災害状況を考えたとき、我々消防団員・消防職員は常に地域の安全・安心を守る要



として大きな役割を担えるよう、十分な備えをしておかなければなりません。そのことよってこそ消防機関に対する地域住民からの高まる期待に応えることができるものと考えております。
どうか皆様方におかれましては、今後とも住民の生命、身体、財産を守るという消防の崇高な使命を達成するため、なお一層職務にご精励いただきますようお願い申し上げます。
結びに、今年が災害のない平穏な一年でありますことを切に祈願し、県下消防団、消防本部のますますのご発展と皆様方のさらなるご活躍、ご健勝をお祈り申し上げます。

初春のお喜びを申しあげます。
世界の主要国で次代のリーダーが決まり、新しい国際秩序の構築が求められています。私たち日本も新たな枠組が決まりました。成熟社会にふさわしい社会システムへの転換に向けた歩みを進めなくてはなりません。
人口減少や高齢化を悲観するのではなく、変化に対応しつつ、これまで築いてきた知恵や資源を活かして豊かな地

域社会をつくる好機とすべきです。世界に開かれた歴史や文化を有し、多様な人材を輩出して日本をリードしてきた兵庫が、今こそ持てる力を十分に発揮し、未来を拓く先頭に立って歩んでいくべきではありませんか。
一つには、安全安心の基盤をつくる。南海トラフ巨大地震や頻発する風水害への備えに万全を期すとともに、医療、福祉など暮らしを支える

基盤を確保します。
二つには、質の高い生活をつくる。次代を担う人づくりを進めるほか、高齢者や女性の活躍を応援し、誰もが生きがいや豊かさを実感できる社会をめざします。
三つには、新時代の経済社会をつくる。最先端の科学技術基盤を活かした新産業創出、農水産物のひょうごブランド戦略の推進など、世界と競える産業をつくり出します。
四つには、地域の元気をつ



平成二十五年新春メッセージ 〜兵庫から未来を拓く〜

井戸 敏三



くる。交通基盤を充実しつつ、地域再生大作戦やツーリズム振興など、内外との交流の促進を通して地域の活性化を図ります。
こうした取組を自らの判断と責任で進めるため、地方分権改革を関西広域連合と一体となって推進するとともに、第二次行革プランの総点検を行い兵庫の自立をめざします。
さあ、二一世紀兵庫長期ビジョンのもと、県民みんなの知恵と力、ふるさと兵庫への思いを結集し「創造と共生の舞台・兵庫」をつくりあげていきましょう。
新時代 拓く基は
県民の 知恵と資源を
生かす志

年頭の辞

消防庁長官
岡崎 浩巳



平成二五年の新春を迎えるに当たり、平素から地域の安心・安全を守るため、昼夜を分かたず消防防災活動にご尽力頂いております全国の消防関係者の皆様に謹んで年頭のご挨拶を申し上げます。

平成二三年三月に発生した東日本大震災は、これまでに経験したことのない大地震と巨大津波により各地に甚大な被害をもたらすとともに、福

島第一原子力発電所の事故が発生しました。また、その後も、災害は後を絶たず、昨年は竜巻や豪雨による災害に加え、ホテル火災やコンビニエ

このほか、ホテル・旅館等における、立入検査及び違反処理の推進や新たな表示制度等を含めた火災予防対策、福島第一原子力発電所の避難指示区域における管轄消防機関の支援や原子力災害に係る地

域防災計画の策定支援などに取り組んでまいります。皆様方におかれましても、我が国の消防防災・危機管理体制の更なる発展と、国民が安心して暮らせる安全な地域づくりのために、より一層のご支援と御協力をいただきませうようお願い申し上げます。



新春のご挨拶

財団法人 日本消防協会
会長 秋本 敏文



平成二五年の輝かしい新春を迎え、謹んで年頭のご挨拶を申し上げます。

全国の消防団員、消防職員の皆様が、地域の安心・安全を守るため、日夜献身的なご尽力をされていることに対し、心から敬意を表し、深く感謝申し上げます。

東日本大震災以来、各地で大規模な地震発生との切迫性が指摘されております。また、

の大きな願いである安心・安全を確保するためには、常備消防・消防団を問わず全ての消防関係者が一致協力して、

今年(平成二五年)は、自治体消防六五周年の年です。また、明治二七年の消防組規則制定によって、現在の消防団の前身である消防組が全国的にスタートして

最後に、全国の消防関係の皆様がますますご健健で、地域の安心安全と郷土の発展のため、一層のご活躍をいただきますよう衷心よりお祈りし、年頭のご挨拶といたします。

一昨年三月、東日本大震災が発生しました。巨大な津波などで極めて大きな被害が生ずる中、消防は震災直後から

昨年(平成二四年)は九州北部や日本各地で豪雨による大きな被害が生じました。まさに日本中、いつ

のなかで、消防に対する国民の期待はますます大きくなり、その役割もさらに重要なもの

この大会は、これまで百年以上の間、様々な災害を経験し、これを乗り越えてきた消防の伝統を振り返りながら、東日本大震災後の我が国消防のあり方を考えるとともに、消防関係者の絆を一層強く固



～ 謹んで新春のご挨拶を申し上げます ～

財団法人 兵庫県消防協会

平成二五年元旦

- | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----|---------|-------|---------|---------|---------|-----|---------|-------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|-----|---------|
| 総 裁 | 井 戸 敏 三 | 副 総 裁 | 吉 本 知 之 | 名 誉 会 長 | 杉 本 明 夫 | 会 長 | 岸 谷 義 雄 | 副 会 長 | 北 井 道 雄 | 岸 本 重 男 | 作 間 尚 義 | 前 田 昭 廣 | 中 西 君 一 | 嶋 澤 清 美 | 浄 慶 康 治 | 足 立 宏 行 | 小 川 宏 進 | 井 内 宏 進 | 梶 間 信 明 | 松 本 隆 雄 | 監 事 | 井 内 信 明 |
|-----|---------|-------|---------|---------|---------|-----|---------|-------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|-----|---------|

平成二四年 秋の叙勲(消防関係)伝達式が挙行

平成二四年秋の叙勲が一月三日に発令されました。叙勲の受章者(消防関係)は、全国で五八七名、うち兵庫県では、元消防団員・吏員一七名が叙勲の榮に浴されました。

受章者は、永年にわたり国民の生命、身体及び財産を火災等の災害から防御するとともに、消防力の強化・拡充に尽力し、社会公共の福祉の増進及び業界の発展に寄与した消防関係の方々です。

叙勲の伝達式は、平成二四年一月一日(木)午前十一時一五分よりニッシーホールにおいて執り行われ、各代表者に叙勲が伝達されました。



受章者の皆さま

| 《全国消防関係受章者数》 | |
|--------------|------|
| 旭日小綬章 | 一名 |
| 瑞宝小綬章 | 二七名 |
| 旭日双光章 | 二名 |
| 瑞宝双光章 | 八一名 |
| 瑞宝単光章 | 四七六名 |
| 計 | 五八七名 |



代表受領 河合 勝様



秋本日本消防協会会長祝辞



樽床総務大臣

《兵庫県下受章者(消防功勞)》

- ◎瑞宝双光章
 - 元明石市消防団 団長 荻野 忠志
 - 元加古川市消防団 団長 後藤 政義
 - 元小野市消防団 団長 小林 正幸
 - 元洲本市消防団 団長 竹口 弘之
 - 元神戸市中央消防団 団長 深井 勲

◎瑞宝単光章

- 元尼崎市消防団 分団長 赤川 昇
- 元姫路市姫路西消防団 団長 梅元 義昭
- 元西宮市消防団 分団長 浦入 稔
- 元相生市消防団 団長 河合 勝
- 元加古川市消防団 分団長 草水 敏
- 元西宮市消防団 分団長 小西 和芳

元尼崎市消防団

- 分団長 斉藤 進
- 元洲本市消防団 副団長 津司 治英
- 元神戸市西消防団 副団長 中垣 正弘

元姫路市網干消防団

- 分団長 中村 國雄
- 元神戸市垂水消防団 団長 信川 克己
- 元豊岡市豊岡消防団 副団長 渡邊 安志

平成二四年秋の褒章伝達式

消防団員として永年にわたり消防防災活動に献身的に努力し、消防の発展に大きく授与される藍綬褒章は全国で七八名、うち兵庫県では神戸市北消防団の小西団長、伊丹市消防団の永島副団長が受章の榮譽に輝きました。

《兵庫県下受章者(消防功績)》

- ◎藍綬褒章
 - 神戸市北消防団 団長 小西 元八
 - 伊丹市消防団 副団長 永島 健一



第一九回危険業務従事者叙勲が 平成二四年一月三日に発令



受章者の皆さま

叙勲の栄に浴された方々は、消防職員として国民の生命、身体及び財産を火災等の災害から防御するため、永年にわたり著しく危険性の高い業務に精励するとともに消防力の強化、充実に尽力され、消防の発展に貢献し、社会公共の福祉の増進に寄与されました。

受章者は、全国で瑞宝双光章三六〇名、瑞宝単光章二六一名、計六二一名、うち兵庫県関係では、二二名の消防職員が受章されました。

兵庫県下受章者（消防関係）
◎瑞宝双光章
元北但行政事務組合
消防司令長 秋和 光男

元神戸市
消防正監 石原 常博

元川西市
消防司令長 岩元 善行

元神戸市
消防正監 奥村 儀弘

元姫路市
消防監 小幡 邦昭

元赤穂市
消防司令長 川端 康夫

元淡路広域消防事務組合
消防監 坂本 武

元たつの市
消防司令長 田口 三好

元西宮市
消防監 辻 喜正

元三木市
消防司令長 常深 讓

元宝塚市
消防監 長尾 諭

元姫路市
消防監 馬場 俊治

元神戸市
消防正監 古川 恒夫

元西宮市
消防司令長 堀下降二郎

元加古川市
消防司令長 松尾 和彦

元神戸市
消防監 道上 琢男

元神戸市
消防正監 向田 淳

元明石市
消防司令長 吉田 耕二

◎瑞宝単光章
元姫路市
消防司令長 岡本 照

元尼崎市
消防司令 岸 健藏

元伊丹市
消防監 佐々木悦夫

元西脇多可行政事務組合
消防司令 菱羅 政巳



代表謝辞 奥村 儀弘様



会場の様子

「平成二四年版 消防白書」 の公表

消防庁

この度、消防庁において、平成二四年版消防白書が公表されました。

消防白書は、国民の生命、身体及び財産を災害等から守る消防防災活動について紹介しているもので、毎年刊行されています。

平成二四年版消防白書では、第一部において、東日本大震災を踏まえた課題への対応として、①地震・津波対策の推進と地域防災力の強化②消防職員の初動活動及び消防職団員の安全対策③緊急消防援助隊の効果的な運用・施設整備等④原子力災害への対応⑤その他、危険物施設等における地震・津波対策や震災を踏まえた研究開発等が記載されています。また、第二部では、消防行政を取り巻く現状と課題について記述されています。

消防白書は、消防庁のホームページに掲載されているほか、政府刊行物サービスセンターや主要書店などで販売されていますので、是非ご覧ください。

消防庁ホームページ
(消防白書掲載ページ)
<http://www.fdma.go.jp/html/hakusho/h24/h24/index.html>

平成二四年度第二回 (財) 兵庫県消防協会 女性消防団員研修会

平成二四年度第一回(日)、兵庫県消防学校において今年度二回目の女性消防団員研修会が開催され、県下から七名の女性消防団員が参加しました。

研修内容は、午前に芦屋市女性消防団による活動事例発表を行い、午後は救急救命士

養成所教官の指導の下、救急講習会を行いました。

活動事例発表では、芦屋市女性消防団発足の経緯や活動紹介、子供達への防火防災啓発の為にパネルシアター(火災編・救急編)などを披露していただきました。

参加者の多くは、他の消防団の活動を見る機会がほとんど無く、先進的に活動されている消防団の活動を知る事は良い刺激になり、今後の消防団活動のプラスにもなる貴重な時間になったようです。発表後は、



研修会の様子

芦屋市女性消防団の皆さんの周りに、多くの他消防団の皆さんが集まり、色々な質問をされている光景が印象的でした。

そして午後からは、救急救命士養成所教官の指導の下、救急講習会を行いました。三角巾法と搬送法について学びました。講義・実技共に丁寧に指導



芦屋市消防団事例発表

導していただき、参加者からは、「応急手当は繰り返し練習しないと忘れてしまうので、再度教えて貰えて良かった」との声が多く、また「毛布一枚で男性を運ぶことができ、驚いた」などの感想も聞かれ、有意義な講習会になりました。最後に、三角巾で「本結び」を作って解くゲームを班別対抗で行い、大いに盛り上がり、和気あいあいとした雰囲気で行った研修会を終えました。

来年度も更に充実した研修会を開催したいと考えておりますので、ご参加よろしくお願いたします。

この度の研修参加消防団は次のとおりです。

- ・神戸市東灘消防団
- ・神戸市灘消防団
- ・神戸市中央消防団
- ・神戸市北消防団長尾支団
- ・神戸市垂水消防団
- ・姫路市姫路西消防団
- ・姫路市飾磨消防団
- ・尼崎市消防団
- ・芦屋市消防団
- ・豊岡市豊岡消防団
- ・豊岡市出石消防団
- ・加古川市消防団
- ・赤穂市消防団
- ・三木市消防団
- ・川西市消防団
- ・小野市消防団
- ・三田市消防団
- ・丹波市消防団
- ・南あわじ市消防団

第一八回全国女性消防団員活性化秋田大会開催

第一八回全国女性消防団員活性化秋田大会が、平成二四年度一月一六日(金)に秋田県秋田市の秋田県民会館で開催されました。まず、式典が執り行われ、引き続き秋田キャッスルホテルにて情報交流会、翌一七日(土)には秋田県内視察研修が行われました。

式典は、全国から集まった女性消防団員を始め、各地の消防職・団員が参加し、兵庫県からも岸谷協会長以下総勢三名が参加しました。

オープニングの「NAMAHAGE郷神楽」によるなまはげ太鼓のパフォーマンスに続き、大会旗入場、開会宣言、国歌斉唱、主催者挨拶、開催地市長挨拶、来賓祝辞と進行し、続いて四団体が活動事例発表を行いました。

午後は三団体が火災予防啓発劇のほ



今冬の節電対策

兵庫県



今夏、全国で節電対策が実施されましたが、今冬についても電力需要の急増などの不足の事態により電力不足が懸念される状況です。冬は夏と異なり、暖房等の使用により、朝から晩まで長時間にわたり高い電力需要が続きます。このため、今冬においても平成二四年度冬比六%を目安に家庭やオフィスで、引き続き無理のない範囲で節電への協力をお願いいたします。

【節電の期間】
平成二四年度一月三日(月)～平成二五年三月二九日(金)の平日(二月三一日及び一月二、四日を除く)

【節電の時間帯】
九時〇〇分～二時〇〇分

関西電力ホームページ
<http://www.kepco.co.jp>

兵庫県ホームページ
<http://web.pref.hyogo.lg.jp/nk19/fyunosetsuden.html>

か、『大規模災害時における女性消防団員の活動について』というテーマでパネルディスカッションが行われました。

その後、俳優の柳葉敏郎氏により『ようこそ秋田へ みんなで夢をかたどる』という演題で記念講演が行われました。最後に大会宣言と次回開催地である岐阜県へ大会旗が引き継がれ、閉会宣言の後に式典は幕を閉じました。

兵庫県からの参加団体は次のとおりです。

- ・神戸市灘消防団
- ・神戸市北消防団有馬支団
- ・神戸市長田消防団
- ・芦屋市消防団
- ・三田市消防団
- ・丹波市消防団



大会の様子



『機関科研修を実施』

丹波市消防団

丹波市消防団では『機関科研修』を、消防本部の協力を得て実施しております。

本年度は、一月一八日と二五日の二日間に分けて実施をいたしました。

研修会の前半は講義形式で行い、『消防ポンプの構造』及び『ポンプ運用の基礎知識』について学びます。『消防ポンプの構造』では、消防ポンプの構造からエゼクター装置の操作方法など普段使用



研修の様子

とホース摩擦抵抗などからノズル圧力〇・三MPaを得るために必要なポンプ圧力の求め方などの山林火災で麓から火点まで高低差のある場合において直列高圧放水を行う際に必要な知識であり、連成計と圧力計等の計器の見方と併せて学びます。



圧力計

している器材の構造について学び、『ポンプ運用の基礎知識』では、研修会後半で実施する『直列高圧放水』に向けてポンプ運用に係る実践的な内容を学びます。

ポンプの性能について丹波市では、放水時の圧力と放水量をノズル(ダブコン)口径一九ミリ、ノズル圧力〇・三MPa、放水量四五〇リットル/分と定めており、真空度と吸水の高さ、背圧、放水量

研修会後半の実技講習においては、消防本部署員から直列高圧放水を学び、これまでに経験したことのある団員であっても、今一度自身の知識を見つめなおす良い機会となっております。

機関科研修で学んだ知識を生かすために、丹波市消防団市島支団は実践を行い、山頂付近にある建物を火点と想定し麓から高低差二二〇メートル、ホース延長一・八キロメートルの直列高圧放水訓練を実施しました。

今後も、消防本部と連携し様々な研修を実施し、消防技術の向上に努めていきます。



車両を使つての実技講習



実践!

『住民の生命と財産を守るために』

新温泉町消防団



団員指導によるAED操作講習

ければならないと感じ、水防活動の研修や訓練を実施することになりました。

研修では、水害時の行動計画や団員の安全管理を徹底するとともに、水害想定の上訓練を実施しました。

図上訓練では、過去の浸水実績や土砂崩れがあった場所を地図に記入しながら、重点警戒場所や孤立した場合の支援体制などについて熱心に話し合いました。

特に各地区に伝わる、ここまでは水位が上がっても安心、ここまで来たら逃げる準備を始める、という、その地区しか分からない基準も知ることができ、充実した研修となりました。

そして、近隣分団が互いに地域の危険箇所を把握することができ、支援体制をより強固にすることができました。

訓練では、基本である土の作り方、積み方などを研修し、特に水防活動の経験が無い団員へ水防工法の技術と大切さを教えることができました。

災害時には自主防災組織と協力して対応する必要があるため、町の防災訓練時に住民に土のうの作成や積み方の指導をしています。

また、新温泉町は地域医療の縮小に加えて、ドクターへの出勤も多い地域です。

このことから消防団員も、地域医療に協力して、平時においても救急救命処置ができるようにしたいと考え、団全体で技術取得に取り組んでいます。

心肺蘇生法やAEDの講習を受講し、多くの団員が救急救命法を学んでいるほか、団



土のう積み指導



水防図上訓練

員が自主防災会の救急救命講習の指導者として出動しています。

難しいと思われるがちな救命講習も、消防団員が講師なら身近な存在として、気軽に参加していただけますし、会話も弾みます。

少しずつ変わる心肺蘇生法やAEDの設置数が少ないことが悩みですが、いざという時に命を救う一助になると信じて真剣に取り組んでいます。

『記録的』『こんなことは初めてだ』と言われる最近の大規模災害から住民を守るため、そして医療が不足するなかで消防団員として誰もが遭遇した急病人を助ける可能性を持つるよう、一丸となって頑張っています。

わが町の団長さん

「神戸の中心を守る」

神戸市中央消防団長

土屋 雄司



神戸市中央消防団・土屋団長を紹介いたします。

土屋団長は、神戸の経済、商業の中心である三宮地区を、はさんで東西五キロメートル南北四キロメートルの地区を総勢一七〇名一〇分団を率いる、この四月に就任したて、ほやほや団長であります。団長としては新任ですが、消防団歴は長く、昭和四五年一〇月、中央消防団の前身である尊合消防団第四分団に入

団され、分団長・副団長を経て昨年四月に団長となられました。団長は、この他に保護司・少年指導員・主任児童員なども歴任され、地域の老若男女の方々から信頼も厚い方で、これも地域の安心と信頼を得るため、日々努力邁進された結果であります。

地元の方々からは、二宮の「雄ちゃん」と親しまれ声をかけられます。

消防団活動においては、訓練はもちろんの事、いざ要請があれば誰よりも早く現場に駆け付け、豊富な経験と知識で若い団員を指導され、温かく見守り、育ててこられました。

これからも消防団活動・地域の活動とお忙しいですが、身体に気を付けて中央消防団が地域の安全と安心を守り、信頼される消防団であり続けることができるよう団員一同

へのご指導よろしくお願いいたします。

「強力なリーダーシップ」

洲本市消防団長

小川 宏行



小川団長は、昭和五〇年一月一日に入団し、豊富な経験と卓越した見識により昨年四月に洲本市消防団長に就任されました。団長に就任するとともに、兵庫県消防協会副会長、淡路地区消防協議会会長にも就任され、洲本市とい

う垣根を越えて、精力的に活動されています。昨年は、操法大会の開催年でもあり、団長就任当初から、仕事が忙しいにもかかわらず洲本大会及び淡路大会の指揮や準備、兵庫県大会及び全国大会への応援など全ての大会に顔を出していました。

また、四月から月一回のペースで、団本部役員会や分団長会などに出席しており、その会議でも質問があれば、的確に回答している姿は、副団長をはじめとする役員の間で話題となっております。

「四月に団長を拝命し、ある意味、新入団員と同じく右も左も分からないことが多い。ただ、分団長や副団長としての経験を生かし、着実に団長としての責務を果たしていきたいし、約九四〇人の団員の模範となるよう努めていきたい。また、慣例的な行事も大切であるが、機能別団員など新たな取組みを進めていきたい。」と力強く話す姿が頼もしいところです。

われら若手消防団員

消防団に入団して

明石市消防団
第一分団大蔵班

佐藤 邦行



私は今年で、まだ三年目の新米消防団員です。入団の動機はとくに無く、母の知り合いの家族が消防団の方で、その方の勧誘により、とりあえず入るといふカタチで入団しました。入団した一年目の夏に、市内の小型ポンプ操作大会があり、まだ右も左もわからない私が三番員を努めることになりました。初めは何の意識もなかったのですが、大会の練習や日々の活動を重ねていくうちに、一消防団員としての自覚を持つようになり、以来、訓練などをする時の心構えが変わりました。

消防団での経験というものは全てが新鮮で、ここで経験できることはとても素晴らしいものばかりです。そして消防関係のことだけでなく、目上の方と話す機会ができ、対人関係などでも多くを学ぶことができる場だと思えます。私は消防団に入って本当に良かったと実感しています。これからも明石市の消防団員として少しでも街の安心・安全に貢献できるように、訓練や活動に励みたいと思います。

がんばってます、女性消防団員

神戸市
須磨消防団
本団部長

安井 裕子



『新鮮力』

私達が暮らす須磨は、有名な須磨海岸、また六甲山系である須磨アルプスの山々、桜の名所妙法寺川といった自然に囲まれた美しい町です。また、源平合戦の舞台として一の谷が歴史的にも有名です。

女性消防団員は、平成一六年に四名で結成し、その後二名が加わり、各種防災訓練又は、防災・救急指導といった活動をしています。

当初は何をするにも、戸惑うことばかりでしたが、ベテラン団員や消防署員の皆様から熱心に指導していただき、消防団員として自信を持ち、消防団活動に参加できるようになりました。

平成二二年には、地域内に在学する学生でも、消防団に入団することができるようになり、神戸女子大学の理解と協力を得て、今では一・二名の学生が入団し、消防団活動を実施しています。

学業と両立しながら「地域に貢献したい」との熱い思いから訓練はもとより、さまざまなイベントにも積極的に参加して、地域の方々との交流を深めています。

また、市民救命士インストラクターの資格を取得し、救急講習の指導を実施しています。

学校を卒業すると、須磨消防団を退団することになりますが、消防団で学んだ防災・救命等の知識を、他の地域でも生かしてもらいたいという思いで、学生の訓練指導を女性団員が主に行っています。

これからも、彼女たちの若い力を借りながら、歴史と自然溢れる須磨の町を安心・安全の為に、関係機関との連携活動や防火・救命指導に努めて行きたいと思えます。



消防庁作成 消防団員募集ポスター

地域のお知らせ

神戸市

郷里開発に努力した人と伝統芸能

神戸市北消防団道場支団長

塚本 厚



山脇延吉翁の頌徳碑 (題字は陸軍大将 本庄 繁)

【道場町つて】

六甲山の北部に位置し、今も緑豊かな田園風景が広がる道場町は、三田と有馬を結ぶ交通の要衝として、古くから栄えてきた歴史ある地域です。

昭和二六年に神戸市兵庫区に編入、四八年には北区に分区され、現在の神戸市北区道場町となりました。

町内には、有馬川・有野川が流れ、武庫川に合流しています。又、JR道場駅、神鉄道場南口駅・道場駅があり、神戸・大阪方面へと多くの方の通勤などに利用されています。

神戸市民の給水源である千川水源があり、鎌倉峡・百丈岩やハイキングコース等の観光資源も多くあります。

【郷里開発した山脇延吉】

神鉄道場駅の西側に山脇延吉翁の頌徳碑が建てられています。農村の自力更生運動は延吉によって推進されました。

明治八年生まれで、東京帝国大学で学んでいましたが、父の急逝で帰村、父の創設した道場銀行の頭取に就任するとともに、郡村会議員、県会議員、道場村長などの要職を歴任しました。

延吉の事業は、神戸電鉄の創設などの交通関係、道路整備、河川の改修に力点を置いて治山・治水関係、そして自力更生運動と三つに分けられています。

昭和農村恐慌期には、農民救済に力を注ぎました。農業経営の改善は、農民自身でや

らなければならぬ。これを推進するために全国へ講演の行脚にも出かけました。昭和農村恐慌期に兵庫県から広がった運動の盛り上がりで、政府は農林省に経済更生部を新設するに至りました。

延吉は、鉄道・土木・治水と、郷里である裏六甲の開発に努力を重ね続けました。

【伝統芸能の獅子舞】

いつの世にも人々は娯楽を求め、それを伝える芸人がいました。獅子舞と神社は、従来、同時に語り継がれる傾向にありました。塩田八幡宮に

獅子舞が採り入れられたかは定かではありませんが、三田藩主九鬼隆昌が社殿を再建した際、奉納したものと推定されています。

明治二五年より神楽講の記録があり、氏神の祭礼に奉納する等いろいろな規約が記載されています。

大戦の時期にも秋祭りの花形であり奉納し続けました。昭和三八年に講員が減少し、残った人員では維持できなくなり中絶となりました。

しかし、五穀豊穡 家内

安全を祈願し奉納、講員の親睦を目的に郷土芸能として伝承するために、昭和五二年復活し、名も改め、塩田獅子舞保存会として新しい一歩を踏み出しました。塩田八幡宮の大祭は、一〇月に行われています。獅子舞の曲種は八種類あり、荒神祓(かまどの神様を清める)・剣の舞(悪魔祓い)等です。

緑豊かな自然や伝統ある歴史を活かしたまちづくりが進んでいる道場町。私達は、この地域に住むことができ幸せを感じております。



剣の舞



荒神祓

尼崎市消防団統合五〇周年記念大会開催

尼崎市



稲村市長祝辞

命名式に引き続き、記念講演として、前尼崎市長の白井文様に、「自分たちのまちは、自分たちで守る」をテーマに、自らが陣頭指揮をとったJR福知山線列車事故の経験を交えながら、地域防災の重要性について講演していただきました。

次に、尼崎市出身の元保育士デユオ「あまゆーず」によるミニコンサートをを行い、コンサートの最後には、参加者全員で、「上を向いて歩こう」を合唱するなど、会場は大いに盛り上がり記念大会を終えることができました。

尼崎市消防団は、昭和二二年「消防団令」の公布により、従来の警防団が廃止され、中央、小田、大庄、立花、武庫、園田の六消防団が組織されましたが、昭和の大合併に伴い、昭和三七年七月に、それまでの六消防団が一市一消防団に統合され現在の尼崎市消防団が誕生しました。以来「自分たちのまちは、自分たちで守る」という郷土愛護の精神のもと、地域の防火・防災の要として地域とともに歩んできた本市消防団の五〇周年を記念し、平成二四年九月八日(土)、尼崎市中小企業センター大ホールにおいて「尼崎市消防団統合五〇周年記念大会」が、総勢四〇二名(来賓、自主防災会、消防団、一般参加)が集う中で、盛大に挙行されました。

第一部では、厳粛な雰囲気の中で、表彰及び感謝状の授与等々の式典が行われました。

「ファイヤーフェアリーズ」とは、火の妖精を意味し、火が悪戯をしないように見守るという意味が込められています。女性らしい愛称ですので、皆さんに広く知っていただけたらと思います。

第二部では、まず尼崎市女性消防団員の愛称「あまがさきファイヤーフェアリーズ」の命名式が、稲村尼崎市長の突然の激励もあり、和やか雰囲気の中、執り行われました。



愛称命名式

終わりに、この半世紀にわたる本市消防団の歴史と伝統を継承し、新しい時代に課せられた消防の使命達成のため、結束を強めることができたと喜び、これから先も、尼崎市消防団は市民のため地域防災の要として発展してまいります。



ミニコンサート風景

編集後記

新年明けましておめでとうございます。

皆様方におかれましては、新しい年を迎え、地域を守る決意を新たにされ、改めて消防団活動に取り組んでおられることと思います。

さて、今回、秋の叙勲の伝達式及び受章者の方々の記事を掲載しております。栄えある叙勲を受賞されたことを事務局一同心からお喜び申し上げます。

また、今月も各地区から多数寄稿をいただき、ありがとうございます。

本年も「兵庫消防」をご愛読のほどよろしくお祈りいたします。